

令和7年度

大刀洗町自分ごと化会議 答申

地域と障がい福祉のこれから

～住民とともに考える暮らしの課題と解決策～

2026年3月31日

大刀洗町住民協議会

目次

1. はじめに.....	3
2. 住民協議会実施概要.....	4
3. 提案.....	6
4. 付録 委員アンケート結果（抜粋）.....	17

1. はじめに

大刀洗町町長 中山 哲志 様

「自分ごと化会議」に無作為抽出（くじ引き）で選ばれた私たちは、2025年11月から2026年3月までの全4回にわたって「地域と障がい福祉のこれから～住民とともに考える暮らしの課題と解決策～」をテーマに議論を重ね、私たちの率直な意見やアイデアを集約し「提案書」として取りまとめましたので、町長への答申といたします。

会議に参加した当初、私たちの多くは「障がい」という言葉に対して、どこか遠い世界の話であったり、どう接してよいか分からない「特別なもの」として戸惑いを感じていました。しかし、当事者やご家族、福祉の現場で働く方々、そして専門家の話を聞き、委員同士で対話を深める中で、その意識は大きく変わりました。

障がいは決して特別な誰かの問題ではなく、「計算が苦手」「人混みが苦手」といった私たちが日常的に感じる多様な個性や苦手の延長線上にあるものだと気づきました。また、年齢を重ねれば誰であってもできないことが増え、いずれ障がいを持つ可能性があることから、まさに「私たち自身の問題（自分ごと）」であるという認識を共有しました。さらに、議論を通じて大きな学びとなったのは、障がいによる生きづらさは個人の心身にあるのではなく、多数派に合わせて設計された社会の環境や仕組みの側にあるという「社会モデル」の視点です。全員をただ「同じ」に扱うことが平等なのではなく、それぞれの特性に応じた「異なる配慮（合理的配慮）」を行うことこそが真の対等であること、「自立とは誰にも頼らないことではなく、依存先を増やすことである」という本質的な考え方を学ぶことができました。

本提案書では、こうした気づきを町全体に広げ、実践していくための具体的なアクションを5つの柱として取りまとめています。支援を専門家や行政にすべて委ねるのではなく、まずは私たち住民自身が相手を知ろうと歩み寄り、必要な人に情報を届ける温かい「お節介」を焼くことが求められます。そして、障がいの有無に関わらず自然に混ざり合い、誰もが役割を持てる「ごちゃまぜ」の居場所をつくること、お互いの弱さや失敗を自然に言い合える「心理的安全性の高い地域社会」を築くことが、すべての出発点になると考えています。

この提案が、大刀洗町において障がいを特別視することなく、多様な人が当たり前混ざり合い、誰もが安心して暮らせる地域社会を実現するための第一歩となることを、委員一同、心より願っております。

2026年3月31日

大刀洗町自分ごと化会議 一同

2. 住民協議会実施概要

大刀洗町としては12期目（14テーマ目）となる「住民協議会」を実施した。

委員、テーマ及び各回の議論は以下の通りである。

○ 委員

無作為に抽出し協議会委員の案内を送付した数	492名
応募した委員（応募率）	25名(5.1%)
参加した委員の数 ・ 応募した25名を選任。 ・ 抽出とは別に高校生3人を追加で選任。	28名

○テーマ及び各回の議論

テーマ：「地域と障がい福祉のこれから ～住民とともに考える暮らしの課題と解決策～」

障がい福祉は、当事者やその家族、あるいは専門家が担うものというイメージが先行しがちであり、多くの住民にとっては日々の生活の中で関わりが薄く、身近に感じにくい分野であった。

大刀洗町では、人口の約5.8%にあたる954名が何らかの障害者手帳を所持しているが、実際に町の福祉サービスを利用しているのはそのうちの約3割（312名）に留まっている。

残りの約7割については、支援を必要としていないのか、あるいは必要な情報が届いていないのか把握しきれず、発達障害や内部障害といった「見えない障がい」に対する地域の理解不足が課題となっている。

このような現状を踏まえ、行政や専門家による支援に頼るだけでなく、住民一人ひとりが障がいを身近な問題として捉え直し、誰もが安心して暮らせる地域社会を実現するためにはどのように行動していくべきかについて話し合った。

各回の議論

- ・第1回会議：2025年11月22日（土）
住民協議会の概要説明（構想日本）
テーマに関する説明（福祉課）
委員の自己紹介など
- ・第2回会議：2025年12月21日（土）
テーマについて全体で協議（主な論点：発達障害と支援のあり方、「特別視」と「優しさ」の境界線、苦手なことの共有と障害の定義）
「改善提案シート」の記入 など
- ・第3回会議：2026年1月24日（土）
ナビゲーター（熊谷晋一郎氏）からの問題提起（演題：「障害・インクルージョン」）、質疑・議論
「改善提案シート」の記入 など
- ・第4回会議：2026年3月7日（土）
「提案書（案）」について、集約に向けて全体で議論
「意見提出シート」の記入 など

○会議の様子



3. 提案

障がい福祉を自分ごと化するための提案書

本提案は、各委員が会議ごとに記入した「改善提案シート」や各回の協議内容を踏まえて取りまとめたものです。

提案

1. 「障がい」を特別視せず、弱さや苦手と変わらないという考え方を広め、それらを認め合える土壌をつくる

提案

2. 「待つ」だけでなく「届ける」。必要な人に支援がつながる情報網とお節介を広げる

提案

3. 自然に混ざり、誰もが役割を持てる「みんな一緒」の居場所をつくる

提案

4. 「社会モデル」で環境を変える意識を持ち、社会のバリア（障壁）を見直す

提案

5. ライフステージの不安をなくし、切れ目のない「ワンストップ」の支援・相談体制をつくる

1. 「障がい」を特別視せず、弱さや苦手と変わらないという考え方を広め、それらを認め合える土壌をつくる

障がいを「特別なもの」として遠ざけるのではなく、自分たちの「計算が苦手」「人混みが苦手」といった日常の延長線上にあるものとして捉え直すことが第一歩だと考える。専門家や行政だけに支援を任せず、まずは私たち自身が相手を知ろうと歩み寄り、共に学び合う姿勢が不可欠である。そして、お互いの弱さや個性を認め合い、誰もが失敗や不安を言い合える心理的安全性の高い地域をつくるため、日常的な声掛けや交流を通じて「みんな違って当たり前」という土壌を大刀洗に根付かせることが重要である。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民

- ① 障がい者とレッテルを貼るのではなく、「計算が苦手」「人混みが苦手」など、自分自身の苦手なことと同じ延長線上で相手を捉える。
- ② 障がいについて学び、家族や友人に、この会議で知ったこと（見えない障がいのことなど）を話してみる。
- ③ 子ども同士で障がいについて疑問を持った際、「こういうところが苦手だから助けてあげてね」と、具体的な接し方や助け方を大人が自然に伝えていく。
- ④ 相手を知ろうとする努力を始める。
- ⑤ 研修を受けたり、自己研鑽する中で発達障がいについての理解を深める。
- ⑥ 支援を専門家や行政に丸投げせず、自分たちも地域で共に支え合う意識を持つ。

地域

- ① 日頃から「顔の見える関係」を築き、お互いの特性を知っておく。
- ② 障がい者の社会活動を収集し情報提供する。
- ③ 校区センターなどで当事者や家族が交流できる場をつくる。
- ④ 「同じ（平等）」に扱うことと「適切か（対等・合理的配慮）」は違うという視点を地域で共有し、対等な関係を構築する。

行政

- ① 学校教育の中で、障がいを持つ人と実際に一緒に遊んだりレクリエーションをする中で個性として知る機会を増やす。

- ② 子どものうちから「みんな違って当たり前」という感覚を育む授業や体験を行う。
- ③ 障がいという言葉を使わずに、困りごとベースで理解を広げる啓発を行う。
- ④ 当事者の存在や悩みを調べ、発信していくことで意識改革を図る。
- ⑤ 悩みや苦手なことを出し合い、対処の仕方などを共有できる場を設ける。
- ⑥ 認知症サポーター養成講座のような、住民参加型の「障がいを知るための講座」を実施する。
- ⑦ 合理的配慮の具体例を周知し、配慮を行っている事業者を評価する仕組みを作る。

その他

- ① 職場で「うつ」や「内部障がい」を持つ同僚への配慮や理解を深めるための研修を行う。
- ② 企業や組織が、誰もが失敗や弱さを言い合える「心理的安全性」の高い職場や組織風土をつくる。

2. 「待つ」だけでなく「届ける」。必要な人に支援がにつながる情報網とお節介を広げる

必要な支援や情報が、本当に困っている人に届いていない。「自分には関係ない」と無関心でいるのではなく、広報紙の福祉情報などに目を通し、近所で困っている人に必要な情報をそっと教えるような、温かい「お節介」を焼くことが求められている。行政や地域全体でも、SNS でのプッシュ通知や回覧板の工夫、検診の場を活用したピンポイントな情報提供など、情報をただ「待つ」仕組みから、積極的に「届ける」仕組みへと転換し、支援の網の目をきめ細かく張り巡らせるようにしていく。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民

- ① 自分には関係ないと思わず、広報紙の福祉ページにも目を通し、家族にも知らせる。
- ② 近所で困っていそうな人がいたら、知っている情報を教える。
- ③ ヘルプマークの意味を知っておく。
- ④ 身近な人が悩んでいるときに、一人で抱え込まず相談できるような声掛けや、話を聞く姿勢を持つ。

地域

- ① 区長や民生委員などが地域の状況を把握するようにする。
- ② 回覧板を、もっと子どもや若い親の目に留まるような内容・デザインにする。
- ③ 障がい者の関連施設や支援方法を分かりやすく提示する。

行政

- ① 広報紙をさらに活用して住民の理解と行動（お節介）を後押しする（例：高齢者や障がいのある方が活躍している姿、施設での楽しいイベントの様子の特集、「こういうことが苦手」「こういう風にしてほしい」という当事者のリアルな知識・声の積極的な掲載）。
- ② 自ら研修会等に出向くのが難しい層にも情報が届くよう、特定の人必ず訪れる場所（健診の場など）でのピンポイントな情報提供や、町公式 LINE 等を活用し、隙間時間に見やすい画像や動画を用いたプッシュ型の情報配信を強化する。
- ③ ヘルプマークの知名度をもっと上げる。困っている時のサインをもっと分かりやすく図解などで周知する。

- ④ 企業向けの障がい者雇用説明会を開催する。
- ⑤ ご当地キャラクターや有名なキャラクター等とコラボし、福祉に関心が薄い人にとっても目に留まりやすい工夫をする。
- ⑥ 「計算が苦手」「人混みが苦手」など様々な特性を表すキャラクターの絵やアイデアを町民や小学生から募集し、住民自身が福祉に関わり、関心を持つきっかけを作る。

その他

- ① 障がい者の雇用を増やす(障がい者が活躍できる場を醸成する)。

3. 自然に混ざり、誰もが役割を持てる「みんな一緒」の居場所をつくる

障がいのある方が「支援される側」に留まるのではなく、誰もが地域の中で何らかの役割を持ち、共に参加できる環境が必要。地域の祭りやイベントを、障がいの有無に関わらず自然に交流できる「みんな一緒」の場として育てていかなければならない。「福祉のイベント」として区切るのではなく、日常的な挨拶運動や楽しいマルシェなどの中で、自然なコミュニケーションを図ることが大切である。一人ひとりが適度な距離感で見守り、誰もが孤立することなく役割を持てる居場所をつくっていく。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民

- ① 特別視せず、自然なコミュニケーションをとる。
- ② 地域のイベントに、障がいのある人もない人もまずは参加する。
- ③ 施設に、ボランティアとしてだけではなく散歩相手や話し相手として遊びに行ってみる。
- ④ 障がい者と接する際、店員が困っている時だけ手を貸すような「程よい距離感」を心がける。

地域

- ① 障がいのある人が「支援される側」にとどまらず、自分でもできる範囲でボランティアに参加して、役割を持って地域に参加できる仕組みを作る。
- ② 障がいの有無に関わらず、日常的に声をかけ合える雰囲気を作る。子どもからお年寄りまで参加できるイベントを開催し、関わりのない他人と話し合う場を設ける。
- ③ 福祉目的のフェアではなく、楽しいお祭り（マルシェやフェス）としてイベントを開催する。

行政

- ① 発達障害についての相談会だと気後れする人も多いので、町のお祭りなどの明るい場での相談機会を設ける。
- ② 農業など障がい者雇用やボランティアが活躍できる場を積極的に作る。

③ 特別支援学級の児童を切り離すのではなく、通常学級の子どもたちと自然に交流し、共に学ぶ機会を持てるような学校環境をつくる。

その他

① 障がいのある方が作ったパンやお菓子を福祉だからではなく、美味しいから買うという質の高い商品を提供・販売する。

4. 「社会モデル」で環境を変える意識を持ち、社会のバリア（障壁）を見直す

障がいによる生きづらさは、個人の心身の機能ではなく、社会の側にある環境の壁（ディスアビリティ）によって生じているという「社会モデル」の考え方を、私たち住民が深く理解することが重要。困っている人を見たとき、「なぜできないか」ではなく「どこが使いづらいのか」と視点を変え、自分や家族の不便な点も隠さずに声を上げていく必要がある。行政や企業・店舗とも協力し、学校や職場、公共施設の使いづらい点やルールを共に点検・改善し、誰もが暮らしやすい町づくりを目指す。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

- | | |
|--------------|---|
| 私たち住民 | <ul style="list-style-type: none"> ① 自分や家族の困りごとを隠さず、「ここが不便だ」と声を上げる。 ② 口頭の指示を忘れてしまうなら付箋やメールで残す、今の体調や気分をカードの色で示す、など工夫をする。 ③ 「障がい=環境とのミスマッチ（ディスアビリティ）」という視点で、困っている人を見た時に「なぜ出来ないか？」ではなく「どこが使いづらいのか？」と考える癖をつける。外出時にディスアビリティに注視してみる。 |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ① 職場や地域行事のルール（環境）を見直す。（例：受付場所を分けたり入場時間を早めるなど、配慮が必要な人が心地よく過ごせる運営の工夫を行う） ② 当事者の声を聞き、地域の使いづらい施設等を一緒に点検、改善する。 ③ 地域の美容室や理容室で、障がいのある子どものカットを受け入れてくれる店舗を増やす、または理解を示す。 |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ① バリアフリー化をする際、当事者の声を取り入れていく。 ② 医療機器や設備の導入において、バリアフリーを調達の要件とするなど、健康格差の解消に向けた環境整備に努める。 ③ 学校の授業でディスアビリティを考える時間を設ける。 ④ 視覚に障がいがある方の安全な移動のため、横断歩道の音付き（音響式） |

信号機を設置・維持に努める。

- ⑤ 本郷駅など、ホームや駅前の道が狭く車椅子の乗り降りが危険な場所について、待機スペースを広くするなどの工夫をする。
 - ⑥ 既存の交通事業者等と調整を図りながら、コミュニティバスの運行範囲を町内にとどめず、隣接する市町村の病院や西鉄の駅などへ接続させるなど、移動のバリア（障壁）を減らす。
- ① 企業や店舗は、ディスアビリティの考え方を取り入れ、施設（設備）の見直しや不便な点の共有を行い、使いやすい環境を整備する。（例：スーパー等で視覚的に商品の場所がわかりにくい方のために、人が通ると音声で案内が流れる等）
- ② 自動販売機のボタンの高さや点字ブロックの設置など、誰もが生活しやすいユニバーサルデザインを推進する。

その他

5. ライフステージの不安をなくし、切れ目のない「ワンストップ」の支援・相談体制をつくる

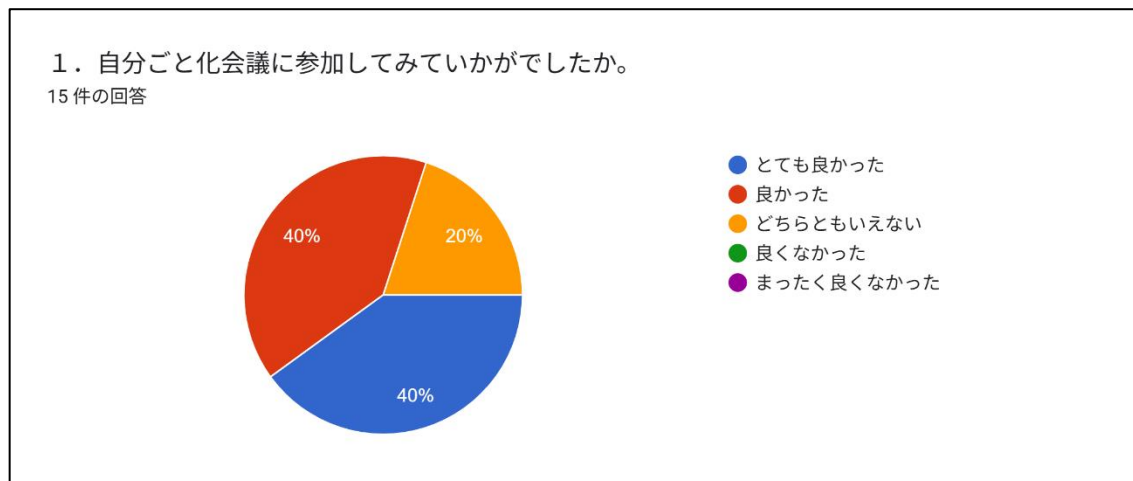
障がいや生きづらさを抱える当事者やその家族が、将来への不安を抱え込まず、ライフステージの変化に応じて安心して暮らし続けられる仕組みが不可欠。身近に悩んでいる人がいれば偏見を持たずに話を聞き、孤立を防ぐ手助けから始めていく。同時に、行政や医療・福祉・学校等が強力で連携し、診断前であってもたらい回しにされることなく、ワンストップで相談や支援に繋がる体制づくりが必要である。ピアサポートなど当事者の知見も活かし、切れ目のない安心のセーフティネットを構築していく。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

- | | |
|--------------|---|
| 私たち住民 | <ul style="list-style-type: none"> ① 周囲で困っているお母さんがいたら、話を聞いたり、「大変だね」と共感するようにする（それだけでも孤立を防ぐ手助けになる）。 ② 違和感を持ったら一人で抱え込まず、早めに保健師に相談したり、巡回相談を利用する。 ③ 誰でも精神疾患や障がいをもちうることを理解し、偏見を持たずに身近な相談に応じる。 |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ① 地域でのカウンセリング案内や、気軽に相談できる体制を周知する。 |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ① 車いすでも利用しやすい飲食店や、障がいへの理解がある美容室や病院などの情報を集約し、当事者や家族が気軽に外出できるマップを作成する。 ② 診断がつく前でも相談に乗ったり、一時的なケアを提供するなど、医療・福祉・学校等が連携して待機期間を支える。 ③ 当事者の困りごとを収集し、住民と共有できるプラットフォームを作る。 ④ 保育園や学校の先生が、子どもの特性にいち早く気づき、親と連携して専門機関に繋ぐパイプ役になる。 ⑤ ピアサポートワーカーの育成・研修を行い、当事者の知見を支援の現場や相談窓口を活かす体制をつくる。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ① 医療機関は、車いすの方でも利用しやすい検診設備を整えるなど、受診のしづらさをなくすよう当事者の声を取り入れ受診環境の改善を行う。 ② 「感覚過敏の子でもOK」「個室あり」など、障がい特性に配慮したサービスを提供する。 |

4.付録 委員アンケート結果（抜粋）

大刀洗町自分ごと化会議 第1回アンケート(委員)



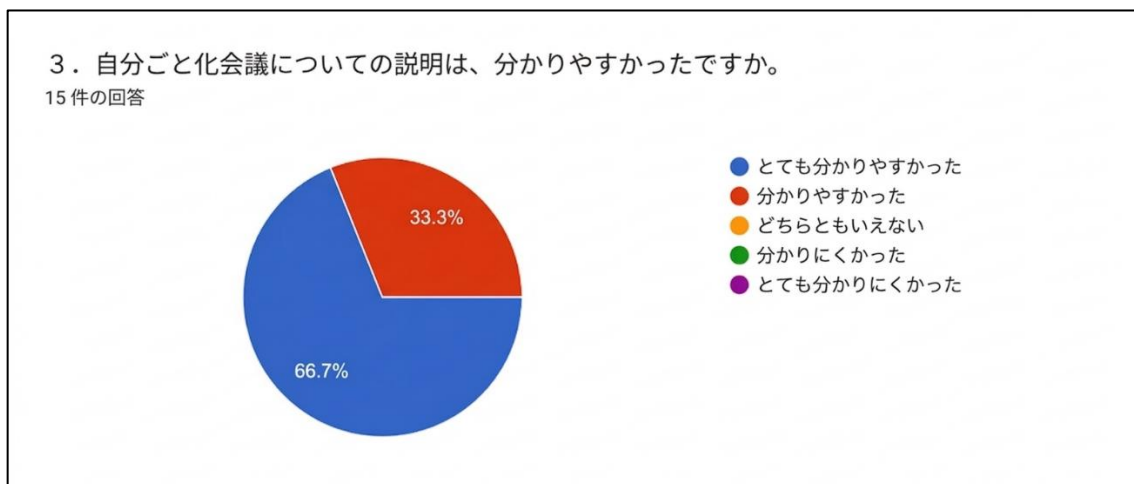
回答の理由を教えてください。（自由記載）

選択肢	回答理由
とても良かった 6名（40.0%）	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者の思いや意見を聞けたり、障がい福祉について知るきっかけが出来たので。 ・専門的知識が多少必要であると感じたから。 ・難しい議題について深く考えられたから ・若い人や健常者の話が聞けた ・自分の身のまわりに障害を持つ方はいないので、直接関わりがある方の話を聞ける機会がありたく、知見が深まりました。 ・私は看護師を目指していて、直接的ではないんですけど関連のあるお話で、今回医療系のお仕事に携わっている方々の意見やお話を聞けてためになったからです。
良かった 6名（40.0%）	<ul style="list-style-type: none"> ・普段会話することのない内容だった。 ・様々にかかえている問題点が分かってよかった。 ・大刀洗での課題が少しわかったように感じたから ・思った以上に話が出てきて良かったです。
どちらともいえない 3名（20.0%）	<ul style="list-style-type: none"> ・大刀洗町の障害福祉について知ることができた ・内容があまり経験や身近にないので、難しい。どう言葉を発したらいいのか、どう話せばいいのか分からない。

2. 自分ごと化会議に参加しようと思った理由や会議に期待することは何ですか。

- ・将来の自分のためのスキルアップ。会議を通してより良い生活を送れたらと思います。

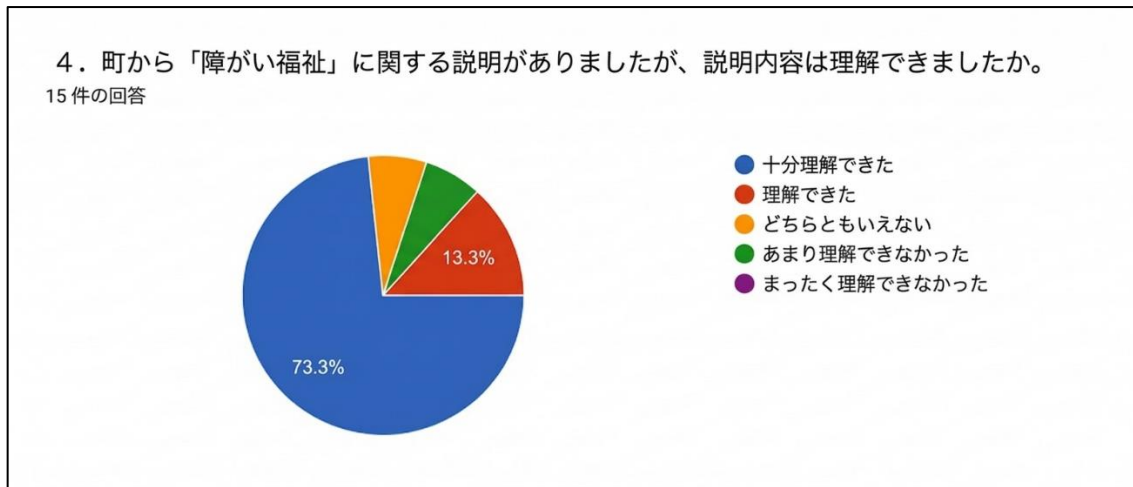
- ・住んでいる町がどのように会議し、変わっていくのか見てみたいと思ったから。また、自分も一緒に考えたいと思ったから。
- ・特にないです
- ・町政に反映されることを期待
- ・自分が住んでいる町の行政の実態を知りたいと思ったから。
- ・なかなか自分の意見を言えない性格なので、この機会を通して自分の意見をしっかり周りのみなさんにお伝えしたいと思って参加しました。
- ・住民の意見を聞けるから
- ・今は別の仕事をしているが、学生時代に学んだことを活かせたらと思います。
- ・今回のテーマが分からなかったが、住民として何か役立つ事があるのかなと思った。災害が多いので防災かなと考えてました。
- ・大刀洗町に貢献する事と知り合いに会えたらいいなと考えています
- ・町政に興味があったから参加しようと思いました。
- ・色々な人の意見を聞きたく参加させてもらいました。
- ・当事者意識の低い問題だったので、知らないことを知れるいい機会に出来れば良いと思います。
- ・住みやすい町の継続を期待したい
- ・自分、子ども達が成長していく町の発展に期待します。



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
とても分かりやすかった 10名 (66.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料も見やすく、話しも丁寧で分かりやすかった。 ・要点がまとまっていた為 ・聞きたいことが聞けた ・少し専門的な用語もあって理解しにくい所もあったんですが、わかりやすく説明してくれたので理解できたところもあったから。 ・大刀洗町の福祉に関する現状を知る事が出来た。
分かりやすかった 5名 (33.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目としての取っ掛かりは理解出来たつもり

	<ul style="list-style-type: none"> ・理解出来ました ・事業者の方が参加されていたので、事業内容など詳しく聞けた。
--	--

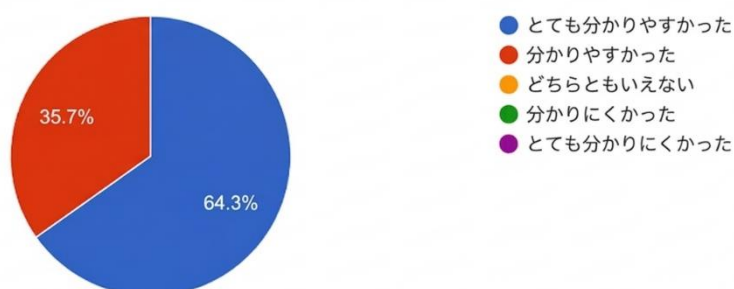


回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
十分理解できた 10名 (73.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料も見やすく、話も丁寧で色々な意見を聞くことが出来たので。 ・難しかったです ・資料で必要な情報が整理されていたため。 ・理解はできたが、認知度は低いと感じた。 ・内容は理解出来るが、ただ統計の報告だけだったと感じた ・自分なりに理解出来たと思います。 ・大刀洗町にある事業を知ることができてよかった。
理解できた 2名 (13.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい
どちらともいえない 1名 (6.7%)	
あまり理解できなかった 1名 (6.7%)	

5. コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか。

14件の回答



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
とても分かりやすかった 9名 (64.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な話し方で聞きやすかったです。 ・皆の意見等をまとめてくれるから。 ・話し慣れていらっしゃる感じだった ・参加者が言語化しにくい部分をうまくフォローしていて、聞くのも話すのも心地良かったです。 ・トークも入れてくださって楽しみながらお話を聞けたからです。
分かりやすかった 5名 (35.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れなんでしょうね ・かなり難しい問題だと思います。

6. あなた自身のこと（属性等）に関する回答省略

7. 今後、障がい福祉のテーマに関して話を聞いてみたい人や議論したいテーマがありましたらご記入ください。

- ・当事者の方が日常生活で困ったことや悩みをテーマに議論を行なう。
- ・当事者の話が聞きたい。
- ・目に見えない障害について
- ・障がいの種類によってどんな支援が必要なのか、どの程度その支援を必要としている人がいるのか、少し専門的、技術的な話が聞けると理解が深まりそうです。
- ・よくわかりません。
- ・障がい者手帳を持っていないグレーな人への支援について
- ・わからない
- ・障害がある方の考え方を聞いてみたい
- ・障がい児保育
- ・もっと障害福祉に関わりたい。
- ・今はまだありませんが、これからの議論を通して考えていければと思います。

- ・就労支援事業所の方から実際どのような事をしているか知りたい
- ・特に。

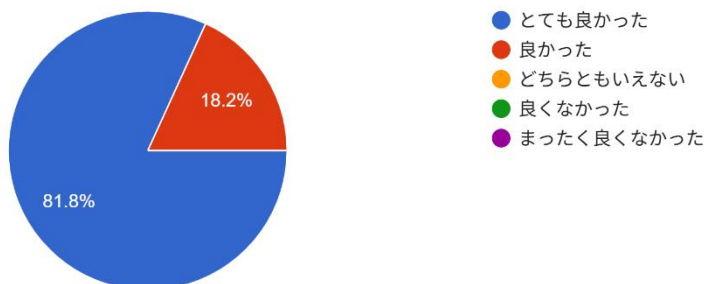
8. 次回以降の会議に向けての要望や今日の感想がありましたら、ご記入ください。

- ・色んな方の意見が聞けて良かったです。
- ・委員の人が話している時や、実際に進行していく中で社会福祉協議会の方が眠っていて、言い方は悪いですがわざわざ参加しているのにそのような姿を見てなんで自分が参加したんだろうって思ったし、説明だけしてあとは寝るとかほんとにありえないと思いました。こうして集まってる以上真剣に取り組んで欲しかったです
- ・活発な発言
- ・非常に有意義な時間でした。都合がつく限りぜひ参加させていただきます。
- ・なし
- ・参加して意見を言うようします。
- ・今日の協議会は学ぶことが非常に多く、とても貴重な機会でした。ただ、専門的なテーマということもあり、発言の意図が十分に伝わらなかった場面では、自分の言葉選びの難しさや怖さも感じました。とっさの発言で専門的に適切な言葉が出てこないことがあるため、その場で意図を確認していただけたら、補足していただけると、もっと安心して意見を述べられると感じました。
- ・ありがとうございました。

大刀洗町自分ごと化会議 第2回アンケート(委員)

1. 住民協議会に参加してみてもいかがでしたか。

11件の回答

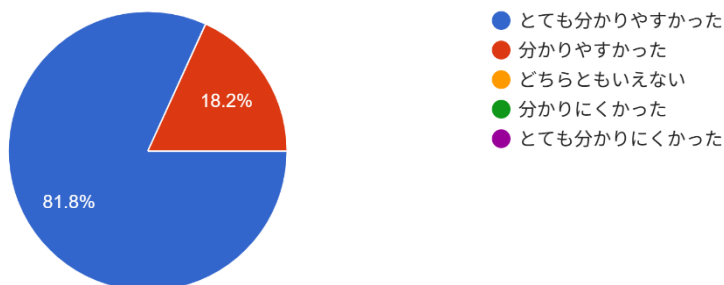


回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
とても良かった 9名 (81.8%)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に発達障害の子どもさんの話が聞けたのが良かったです ・みなさんの意見で、思いあたるところがあって、涙が出ました。 ・家族に障害があるお子さんがいる方の話が聞けてよかった。 ・高校生の正直な意見が聞けたことは本当に良かったです。子どもも年が近いので率直な反応が見れたので、家庭で話す上で参考になりました。 ・個々の課題がこんなに多いのかとびっくりしました。
良かった 2名 (18.2%)	

2. コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか。

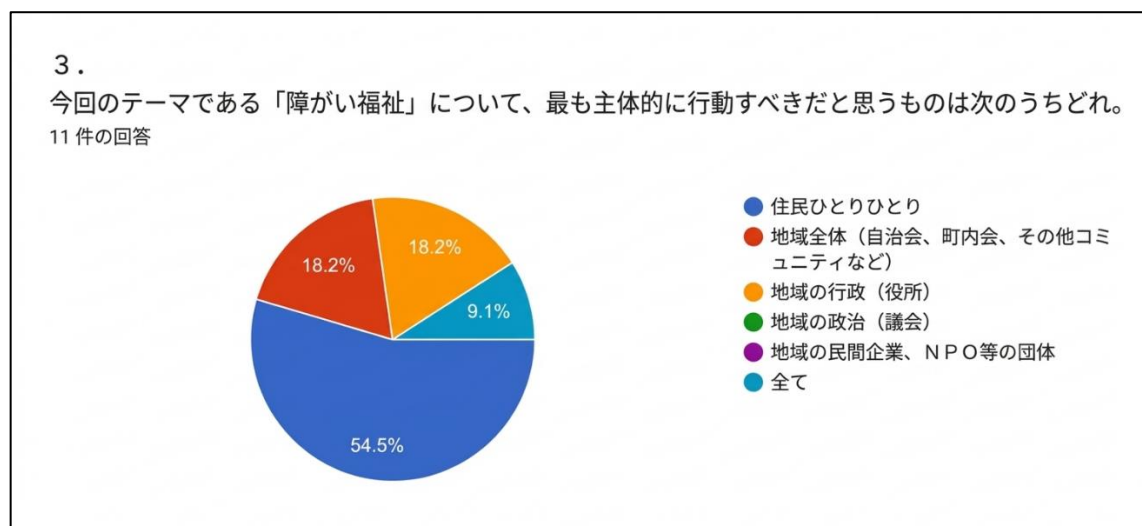
11件の回答



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
とても分かりやすかった 9名 (81.8%)	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめられていて、わかりやすかった ・ききとりやすかったです。

	<ul style="list-style-type: none"> ・その場で何でも話せる雰囲気があった。 ・色々な意見が出た中、上手くまとめられていて分かりやすかったです。
分かりやすかった 2名 (18.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が参加した会議になっている



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
住民ひとりひとり 6名 (54.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民一人ひとりの意識から自治会など少しずつ大きな団体グループを動かしていけるように思えたから。 ・お話を聞く中で、自分がいかに障害者に対する認識が限られており、交流の機会が少ないかを思い知った。彼らと対等に向き合い、互いにストレスフリーな生活を送るには、個人が学び、実践することが何より重要であると考えたため、住民一人ひとりが最も主体的に行動すべきだと考えました。 ・ヘルプマークの事を初めて知った。自分で知ることによって行動に移せると思う。
地域全体(自治会、町内会、その他コミュニティなど) 2名 (18.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・役所は、すぐには動けないので、地域から動いた方が良く思う
地域の行政(役所) 2名 (18.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の課題がある中で時期が来るまで待つ事が出来ない方の為に明確に相談出来る場所があるといいのではないかと思います。
その他 (全て) 1名(9.1%)	

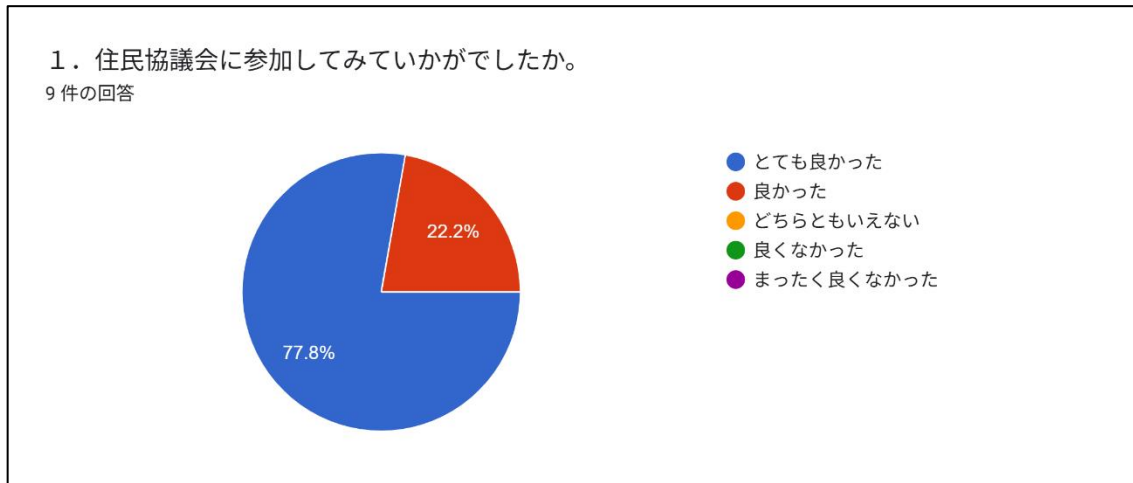
4-1. 次回の会議にて、聞きたいことや、必要な資料がありましたら、ご記入ください。

- ・障害がある大人の方がどのような生活を望んでいるかの意見を聞きたい。
- ・相談窓口毎の業務内容が分かるようにしてそれがホームページを改善されてはと思いました。

4-2. 次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたら、ご記入ください。

- ・現実的な会議になれば良いと思う
- ・障害がある家族を持っている方の意見が聞けて良かった。
- ・こんなに障害で悩んでいる方が多いとは思いませんでした。寄り添う為に相談し易い環境を作れるようになればと思いました

大刀洗町自分ごと化会議 第3回アンケート(委員)

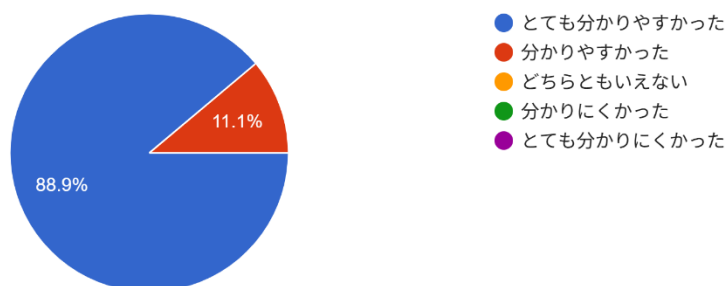


回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
とても良かった 7名 (77.8%)	<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷先生の言葉にとっても共感できました。また、いろんな立場の方の意見をきくことができよかったです。 ・色々な人の意見を聞くことができたから ・熊谷先生のお話を聞き、より深く今回のテーマについて考えることができた ・熊谷先生の話聞いて、考え方捉え方の視点が変わり、視野が広がったように感じた。 ・熊谷先生の努力...涙がでます ・熊谷先生のお話が非常に勉強になりました。まずは当事者の事を知って、どうすれば対等な環境を作って行けるかを考えていくことが重要であると感じました。 ・当事者の熊谷先生の話が聞いて良かった。
良かった 2名 (22.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なお話をきく事が出来たから ・熊谷先生のお話がとても勉強になった

2. コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか。

9件の回答



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
とても分かりやすかった 8名 (88.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いを汲み取って発言してもらえるから ・ 質疑応答の内容を詳しく白板にまとめて下さり、理解の助けとなったから ・ いつもそれぞれ話題で噛み砕いてから話を展開し、進めてくださるので、とても学びが深いです。 ・ 発言したくなるような空間作りをしていただきました。自分の知りたい事をどんどん熊谷先生から引き出していただきました。
分かりやすかった 1名 (11.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言った意見・感想をまとめてくれるから

3. 今回のテーマである「障がい福祉」に関して、最も主体的に行動すべきだと思うものは次のうちどれですか。

9件の回答



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
住民ひとりひとり 6名 (66.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人が当事者の存在にアンテナを張ることで、サポート体制の具現化に繋がると考えます。

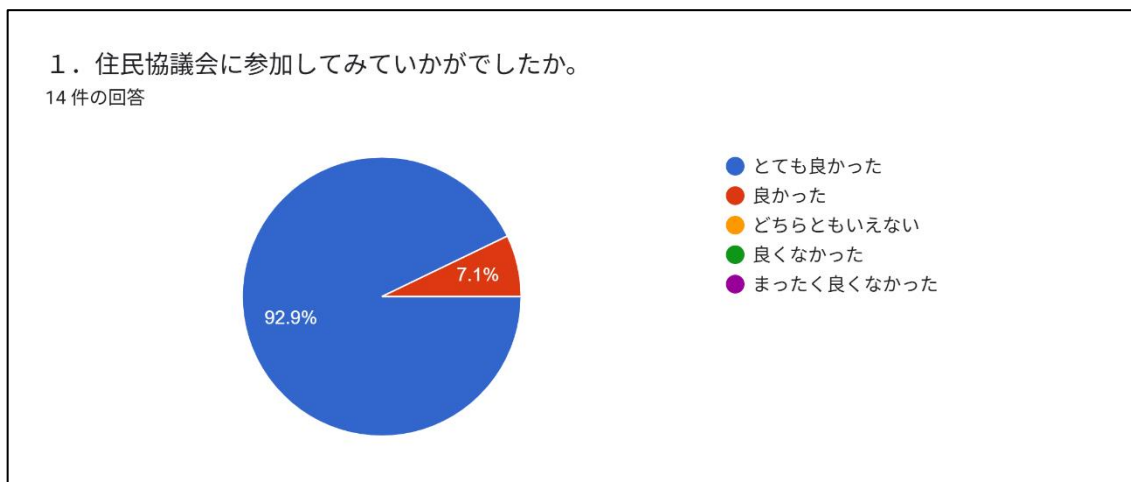
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの意識を変えることで、町全体が変わって行くと思う。 ・今回参加して、自分は障がいについて考えていたつもりだったが、やはり日常生活で健常者として生活していると気にならない、他人事になっている部分が多い事に気づきました。もっと一人一人が意識をして障がいへの理解を深める事が必要である事や、障がいの知識不足が障がい者との関わりの壁になっているように感じた為。 ・いろんな障がいの方がいるので大変むずかしいですね
<p>地域全体 (自治会、町内会、その他コミュニティなど) 3名 (33.3%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者やお世話してる人々の孤立を防ぎ、社会全体と一緒に生きていく意識が大切だと感じたから。 ・まずは「障害」について住民が知ることが大切だと感じた。 ・障がい福祉を知らないから

4-1. 次回の会議にて、聞きたいことや、必要な資料がありましたら、ご記入ください。

4-2. 次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたら、ご記入ください。

・熊谷先生に出会えた事で、視野が広がりました。今まで対等と不平等は埋められない差だけど、対等として扱わなければいけないんだという考えのギャップに悩んでいましたが、不平等ではなく、対等になるために適切な対応をするという考え方が腑に落ちてずっと詰まっていたものが抜け、とても気持ちがすっきりとしました。特別視ではない、対等になるための対応。今まで変えられなかった見方を別の角度から見せていただけたので会議中は思考が止まらないほど、いろんな事を考えさせられました。とても有意義な時間にしていただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

大刀洗町自分ごと化会議 第4回アンケート(委員)



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
とても良かった 13名 (92.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・考えさせられた ・参加しなくては身につかない当事者としての目線を得られたから。非常に有意義な時間でした。 ・今まで自分が知らなかったことを知る機会になり、考えなかった事や自分の悩みが小さく見えるほど熊谷先生という凄い先生を知る事ができ、障がいの事についてだけでなく、様々なものの考え方にいきてくるお話を聞く事ができたので良かったです。 ・初めて参加しましたが、色々な方の考えを聞くことができ視野が広がりました。 ・提案書の深掘りをできたから ・みんなの意見を聞いて、障がいについて色々な視点から考えることができた。 ・自分の住んでいる町について考える機会ができてよかったし、同じ町民の方の意見や体験も聞くことができてよかったです。 ・障害と言う重たいテーマだったけど、自分が関わる可能性も高い内容だと思った。地域で支え合う大刀洗町になれるよう、自分もお節介ができるようになりたいと思った。 ・自分も福祉に対してできることがあるかと思えたから ・熊谷先生の話しに衝撃を受けました。
良かった 1名 (7.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな機会に参加出来ることが良い経験となりました。

2. 全4回の会議での対話を通じて、元々のお考えが深まったり、新たな視点に気づくなど、ご自身の意識に変化はありましたか。

13件の回答

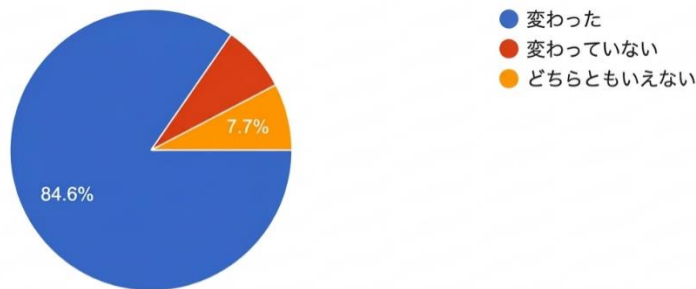


回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
<p>変わった</p> <p>1 3名 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害があっても隠す事はない ・専門家の話を聞く機会があり勉強になりました。 ・会議に参加しなくては聞くことのなかったようなお話を聞けたから。障がいに関する知見が深まりました。 ・今まで障がいは特別視しないという考えは自分の中にあったものの、特別視をしているような、するしかないような、なんとも言えない壁が健常者と障がい者の間にあり、見ないようにしているだけの感覚があったが、熊谷先生からお話を聞く事ができて、全く別の角度からその壁を見る事が出来た時に壁だと思っていたものは壁ではなく繋ぐ橋だった(感覚)事が分かり、衝撃で、動けずに悩んでいた自分も救われるような気持ちでとても嬉しかったです。 ・障害者に携わってあるかたの貴重な意見を聞くことができ、傾聴することの大切さを改めて感じさせられました。 ・無関心であった議題でしたが回を重ねるごとに人ごとではなく自分ごととして考えるようになったから ・最初は障害について他人事と思っていたが、回を重ねるごとに自分ごととして考えるようになった。 ・障害に関する知識だけでなく、サポートの為の情報も知りたいと思った。「自分には関係ないことだから…」と思っていた広報誌の情報も、いつかの自分のために、また誰かに教えられる為の情報収集したいと思った。 ・平等の意味、社会的障害など、今までの考えから全く変わりました。
<p>回答なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やはりむずかしいです。どこまでしていいのか？やりすぎではと…悩むところです。

3. 全4回の会議での対話をきっかけに、日常における実際の行動や、今後の地域との関わり方について変化はありましたか。

13件の回答

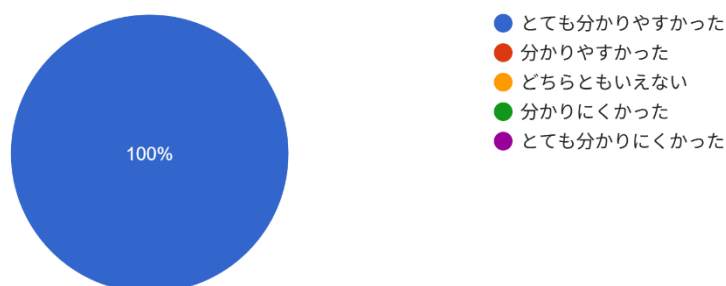


回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
変わった 11名 (84.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害があっても、できる事がある ・大刀洗町がこのような取り組みを毎年行っていることをしれたので、今後も町内のあらゆる活動に町民の意見があるのかもしれないと思うようになるだろう。 ・そういった情報にアンテナを張って見るようになりました。 ・福祉に対しての記事などに目がいくようになりました。 ・仕事でも困っている人がいたときに積極的に行動するようになった 外出時など、当事者の目線で「どこが使いづらいのか」「こうしたら利用しやすいか」など考えるようになった。 ・積極的に地域に関わっていきたいと思うようになりました。 ・キャラクターを使った四コマ漫画での、障害についての周知に興味持った。関わりたいと言ったら、本当に関わらせてもらえた。自分が地域を支える側になる日が来るとは思わなかった。 ・日常で周りを見るなかで、障害がある方へのサポートや、声かけなど。
変わっていない 1名 (7.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ、実際の行動にはうつせていないかもしれませんが、ヘルプマークの存在も知り、お節介というものを温かいお節介という言葉で自分の中に変換出来たので、今までは行動できなかった事も、小さな温かいお節介から始められるといいです。
どちらともいえない 1名 (7.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に意識をする事なく自然体でいくようにしてきます。
回答なし	なかなか行動にうつせない性格

4. コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか。

14件の回答



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
<p>とても分かりやすかった 14名 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ方が、わかりやすかった ・伊藤さんのありがとうございました。 ・明るくない障害者福祉の分野を、丁寧且つ分かりやすくまとめてくださっていたから。 ・皆さんの意見を上手く引き出していただきました。 ・自分の中のぼんやりしたものが、回を追うごとに鮮明になって毎回とても楽しかったです。一つ一つの意見を拾って、ひとつの発言から時間が経って様々な意見を聞いた後に、また以前の発言から引っ張り点と点を結んでいく感覚が本当に凄いなーと思いました。 ・皆さんのご意見を解釈しわかりやすく伝えていただいた。 ・毎回ちょっとした意見でもちゃんとひろってくれたり、そこから視野を広げてくださるから、また意見を見返して分かりやすいようにまとめてくれるから ・どんな意見も汲み取ってくれて、発言しやすかった。 ・皆さんの意見をまとめながら、話しやすいようにバトンを渡しておられて安心して参加することができました。 ・曖昧な自分の意見を、しっかり聞いてもらえた。 ・どんな人の意見も、ご自身の体験や情報などを交えながら話し、まとめられてたので凄いなと感心しました。

5. 今回のテーマである「障がい福祉」に関して、最も主体的に行動すべきだと思うのは次のうちどれですか。

14件の回答

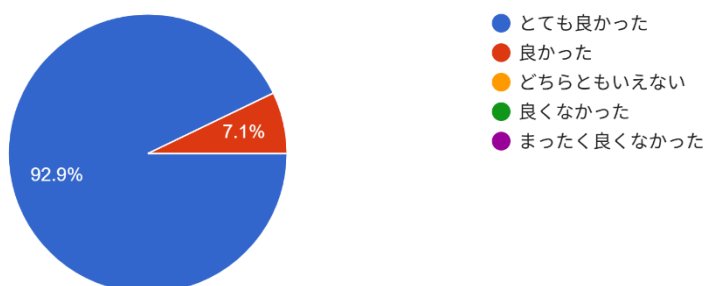


回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
住民ひとりひとり 13名(92.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・まず個人の意識を変えること ・行政や企業が行動しても、結局は一人一人の意識、行動から得られる効果が最も大きいのだと感じたから。 ・当事者意識を持つ事が重要だと思います。 ・今回協議会に参加して、気持ちや考えが180度変わった事を実感し、また会に参加したみんなが同じように感じていたのを見て一人ひとりが知ろうとしたり、温かいお節介の気持ちを持つことが出来れば、行政で出来ない所もカバーできたり、行政まで頼らずに地域でも大丈夫という安心感になり、住みやすい街になっていけると思うから。 ・一人一人の考え行動で大きく変わると思う。 ・公共のものを新しくしても限度があるから住民のひとりひとりがちょっとした気遣いをできるようになれば町全体ももっとよくあたたかい町になると思うから ・障がいについて学び、相手を知ることが大切。 ・一人ひとりの意識だと思う。「何もできない」って言っている人も、車椅子の人に道譲ってくれたり、ドア開けてくれたりするだけで、車椅子押している方はすごくありがたい。何もできないんじゃないかと、「何かやらなきゃ！」って難しく考えてしまっていたのかな、と今回思った。 ・1番は人への思いやりの心だと思うので。
地域の行政(役所) 1名(7.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に工夫して頂き、町民として参加して行きたいと思います。

6. 今回のテーマ「地域と障がい福祉のこれから」は住民が考える内容として、どう思われますか。

14件の回答

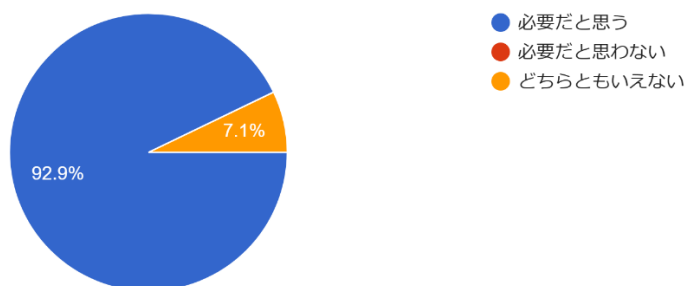


回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
とても良かった 13名 (92.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな町なので、暮らしやすく変えやすいと思う ・大刀洗町にも何らかの障害を抱えた方は多数暮らしている。彼らにとって、また彼らの身の回りの ・難しかったが、避けて通るべきではない重要な議題だと思います。 ・このように障がいについて考える場がまずないので、障がいについて専門家や行政だけが考えるのではなく、住民も考える事が必要で、住民の理解がなければ解決できない部分も多いと感じたから。 ・少しでも自分ごととして意識できるようになった ・テーマは正直むずかしかったです、考える内容としては誰がいつ障がい者になるか分からないし考えるいい機会だと思ったから ・触れづらいテーマではあったが、誰もが苦手は持っている、それと同じだと考えると、関わりやすくなると考えが変わった。 ・地域で支えるってすごく難しいことだと思う。知識がないと、踏み出せない。だからこそ、専門家が「地域で支えましょう！」って言うより、住民自身で支えるための手段を考えることが大事だと思った。
良かった 1名 (7.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に工夫して頂き、町民として参加して行きたいと思います。

7. 今回のように、無作為抽出の手法を使って議論するやり方についてどう思いますか。

14件の回答

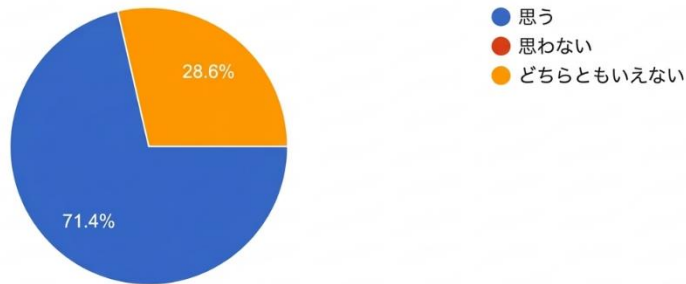


回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
必要だと思う 13名 (92.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の参加者からもあったように抽選で当たったので参加したなど参加し易い方法だと思います。 ・多くの町民にとって、この協議会に参加することは取り上げられた問題について真剣に考える良い機会になるから。 ・無作為出なければ得られない機会だった。 ・やりたい人となると、やはり積極参加のタイプの人に限られるけど、抽選で当たったとなれば行ってみようとなる人が多いという事も今回の会議の中で分かったから。 ・無作為だからこそ色々な意見がでる ・意見にもでてましたが関心と無関心の間で抽選であたったからで行動する人がいるから ・さまざまな意見が聞けて良い。 ・自分から進んで手を挙げることは難しいけど、選ばれたら行ってみてもいいかなと思うから。 ・いろんな考え方・立場の人が議論するべきだと思う。 ・普段関わることのない人の色々な意見が聞けるから。 ・私自身、人前で話すのが苦手なので行くか考えたけど、せっかく選ばれたので参加しました。
どちらともいえない 1名 (7.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・話すのが苦手な人もいるだろうから

8. 今後、住民同士でまちの課題について議論・意見交換ができる場があれば参加したいと思いますか。

14件の回答



回答の理由を教えてください。(自由記載)

選択肢	回答理由
思う 10名 (71.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろ考えさせられる事があるから ・意義があると思います。 ・大刀洗町で暮らしていく上で、こうした場に参加することは、自分の町の問題を知り、解決するために動く大切な場だと感じるから。 ・地域のため自分のためにもなる ・自分が知らない知識、意見など共有できる貴重な場だと思うから ・より良い町づくり、自分ができることがあれば参加したい。 ・色々な意見が聞けるし、自分の視野も広がるので。
どちらともいえない 4名 (28.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回はコーディネーターの方がいて、話がまとまっていたが、住民同士となると、メリットデメリットがあり、感情的になる人もあると思うので、今回の協議会はメンバーにも恵まれたような気がします。 ・呼ばれたら行くけど、自分からは行かない…

9. あなたにとって今回のテーマにおける「自分ごと化」はどのようなことでしょうか。(自由記載)

- ・まさに自分ごとでした
- ・障害も困ってる人などどう支援出来るかが大事だと思います。
- ・身の回りには障害を持った方はいないが、今後就職した職場や、町中などで助けを求めている人を見かけた際の行動に、変化が現れると思っている。
- ・障がいに関する情報にアンテナを張ること。そして、周囲の人と共有する事。
- ・地域貢献
- ・今は身近にいない関係ないと思ってましたが今回のテーマで自分ごととして考えられることができる
- ・まずは相手を知ること。
- ・自分のできないこともさらけ出して助けを求めることができるようになりたいし、周囲の人に対してもそうでありたい
- ・介護士です。昨日まで元気だった40代のお母さんが、脳出血になって障害者になった人と関わり

ました。いつ、自分が病気や事故で障害者になるのかわからないと思う。また、発達障害や精神疾患も自分に関係ないわけではない。「社会に出て、自分が発達障害だとわかる人もいる」と聞いたことあるし、発達障害の人が苦手なことが自分に当てはまる。自分がいつ障害者になるかなんてわからない。

- ・なかなか自分ごと化は難しいけど、寄り添う事、もし自分だったらと想像して行動すること。
- ・難しいテーマでしたが、今回参加されている家庭で発達障害の方が多いのにビックリしました。

10. その他、ご意見や感想等がございましたら、ご記入ください。(自由記載)

- ・楽しかったし、勉強になった
- ・お疲れ様でした。
- ・本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！
- ・議題のテーマは難しいと思ってましたが貴重な話、意見などを聞いて本当によかったと思います
- ・町民、行政、福祉施設など色々な人が一つのテーマについて意見交換し、みんなで作る町の町民として誇りに思いました。
- ・今回の会議に選ばれてよかったです。ありがとうございました。
- ・凄く勉強になりました。ありがとうございました。

令和7年度大刀洗町自分ごと化会議委員(五十音順)

石橋 かほり	小野 航平	黒岩 遥斗
新二日市 ゆう子	谷岡 文綾	中原 由加里
平田 未来	山田 直美	

※掲載に同意いただいた委員の氏名を掲載

構想日本

<コーディネーター>

- ・伊藤 伸 (構想日本 総括ディレクター)

<ナビゲーター>

【第3回】

- ・熊谷 晋一郎 (東京大学先端科学技術研究センター教授、
東京大学多様性包摂共創センター副センター長)



自分ごと化会議

私に関係ある？ あり！